
博と学の間

水沢玲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

博と学の間

【Nコード】

N8112C

【作者名】

水沢玲

【あらすじ】

戦後、新設される学位の名前を決めるべく長々と議論している学者たち。そこに立ち上がった男の発言はこの小田原評定に終止符を打つことができるのか。ちょっと笑えるかもしれないショート・シヨート第二弾。

戦後の占領政策の一環として実施された教育改革。いわゆる6・3・3・4制はそれほど抵抗なく学者たちに受け入れられました。同時に一つの些細な問題を生みました。

旧学制で規定されていた学位は最高峰である博士と大学を卒業したものに与えられる学士のふたつ。改革により両者の間にも一つ学位を設ける必要が出たのです。

かくしてその名称を決めるために日本の有名な学者たちが一堂に会し、あれやこれやと議論を始めました。

道を修めたのだから道士がいいだろうという先生。学を究めたという意味で究士はどうでしょうと控えめに提案する少壮の学者。いやいやここは分かりやすく少博士とするべきではないかねとしわがれ声をあげる老教授。などなど。

一部にはこれがで学者かと首をかしげたくなくなるようなセンスの持ち主もいるにせよ、百花繚乱の中には魅力的な案も多く、簡単には決まりそうもありません。

そんな中にやおら手を挙げた壮年の男、名前は湯川秀樹。

湯川と言えば一部ではノーベル賞受賞の噂さえささやかれるほどの理論物理学の権威。漢詩の素養もある文理両道の秀英です。彼の鋭敏な頭脳からいったいどんな言葉が紡ぎ出されるのだろうと周囲の期待の中、湯川博士は自信ありげに提案しました。

「みなさんどうでしょう。博士と学士の間ということですから、ここはひとつ『中間士』としては」

結局、新しい学位の名は修士と決まりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8112c/>

博と学の間

2010年10月28日08時17分発行